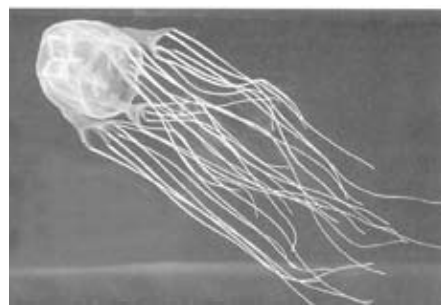


気をつけよう海の危険生物 ハブクラゲにご注意を



私たち沖縄の海は大変魅力的ですが、キケンな生物も多く年間300人以上の人がキケン生物の被害にあっています。

特に「ハブクラゲ」による被害が全体の半数以上を占めています。これまで3人の子供が亡くなるなど、広範囲に刺された場合は命にかかわります。

沖縄県全体におけるハブクラゲ被害は、平成17年には153件発生し、その内うるま市では38件発生しています。実に全体の24パーセントの発生率となっています。

ハブクラゲは夕方から夜間に活動し、朝方から日中は岸近くの浅瀬で過ごしています。「(衛生環境研究所調査)ハブクラゲがいる浅瀬では子供達が泳いでいます。子供は体が小さいので、刺されてしまうと、体内に占める毒の割合が大人に比べて高

くなり、症状も重くなってしまいます。

予防は？

一番良いのは「クラゲ侵入防止ネット」の内側で泳ぐことです。それが無い所ではウエットスーツや長袖シャツ、スパッツなどを着用して肌を露出しないようにしましょう。

刺されたら

刺されるととても痛くショックを起こすこともあります。すぐに助けを呼び、海からあがってください。

刺された所にハブクラゲの触手が残っていたら、こすらずに(こすったら被害が広がります)、食酢を30秒ほどたたぷりかけてから触手を取り除きます。痛い場合は氷や冷水で冷やすと楽になります。

広範囲に刺された場合は、呼吸や心臓が止まってしまうこともあります。すぐに、周りの人が人工呼吸と心臓マッサージをしながら、救急車を呼びましょう。

ハブクラゲの他にも毒をもつ生き物はイソギンチャクやオコゼ、ウニなどたくさんいます。キケンと思われるものや、怪しい物には触れないほうが無難でしょう。

危険なスズメバチに注意

スズメバチやアシナガバチのような「刺す」ハチは、樹木の害虫であるガ類の幼虫を補食する益虫でもありません。

しかし、特にスズメバチの場合、アレルギー体質の人が刺されるとショックを起こししばらくすると倒れ込み、意識を失い、危篤に陥り最悪の場合刺されてから15〜30分後に亡くなってしまうケースもあります。すぐ救急車の手配が必要となります。

アレルギー体質の人以外の症状としては、一般的に激痛から始まり、その後の局所の腫れ、やがてかゆみが変わっていきます。これらハチに刺されてしまった場合には、すみやかに患部を冷水や氷で冷やし、医師の診断を受けてください。また、スズメバチの巣(写真)を見つけた場合は巣に近づかず、すぐ市役所環境課(☎973-15594)にご連絡ください。



犬・ネコは責任もって飼いましょう

最近夕方から夜・朝がたに犬・ネコを放している方がいます。そのため周辺住民は、犬・ネコの排泄物などで衛生面や安全面などで大変困っています。街の美化のため、周辺住民がその犬・ネコの排泄物を処理している状況もあります。犬・ネコの排泄物の処理は飼い主の義務です。飼い主の皆さんはぜひ責任を持って犬・ネコの飼育はしてください。

環境課の事務所が2階から地下1階に移転しました。☎973-5594

・行楽シーズン到来！
海中道路・浜比嘉島など市内の各海岸や浜でビーチパーティーをされる方が置き去りにされています。ごみは各自で分別し、自宅へ持ち帰りましょう。



▲海中道路に置き去られたごみ